

「授業」での「理解」の方法を考える
- 学校の定期テストで100点を取るために -

開倫塾
塾長 林 明夫

開倫塾では、学校時代だけでなく一生使える「勉強の仕方」のスキルを、塾生全員に身に付けていただきたく希望します。今月のテーマは、学校の定期テストで100点を取るために、どのように「授業」に臨んだらよいかです。お読みになりやすいように、毎回QandAの形で書かせていただいております。予め御了承下さい。今までの塾長通信は、開倫塾・林明夫のHPでも御覧になれます。<http://www.kairin.co.jp/>

Q：3学期制の学校では、7月初旬に1学期期末テストがあり、2学期制の学校では6月下旬に前学期の中間テストがあるところが多いようです。学校の定期テストでよい点数、つまり100点を取るにはどうしたらよいですか。また、希望校に合格するためにはどうしたらよいですか。

A：(林明夫：以下省略)この「塾長通信」や「開倫塾ニュース」を丁寧にお読みになっている方は既によくおわかりと思いますが、「定期テスト」でよい点数(100点満点)を取る、また、「希望校に合格」するためには、「学習の3段階理論」を「定期テスト」や「希望校合格」に応用することが最も確実です。

「1学期期末テスト」や「前学期中間テスト」まで3～4週間ある方が多いと思います。また、受験までは、受験学年の方は7～8か月以上、非受験学年の方は1年以上あります。そこで、できるだけ「学習の3段階理論」どおりに、定期試験勉強と受験勉強をやってみることをお勧めします。

Q：何ですか、その「学習の3段階理論」というのは？あまり聞いたことがないのですが、わかるように説明して下さい。

A：はい、わかりました。塾生や保護者の皆様の中には、最近開倫塾に入塾なさった方も多いと思いますので、少し詳しく説明させていただきます。ただ、以前から開倫塾に在塾の塾生や保護者の皆様は、何回も説明させていただいているので「学習の3段階理論」が十分わかっている方も多いと思います。よくわかっている塾生の皆様も保護者の皆様も、復習のつもりでもう一度ゆっくりお読み下さいね。頭ではよくわかっているにもかかわらず実際にやり抜くのはなかなか大変ですから、時々「学習の3段階理論」を用いた「勉強の仕方」についても復習をし、「気を引き締める」ことも大切です。

<「学習の3段階理論」とは>

(1)学習を3つの段階に分けて、それぞれの段階の勉強方法を工夫することによって、学習の成果を確実にするために私が考えた理論です。

誰にでもできるかなり丁寧(ていねい)な勉強方法ですので、1つ1つコツコツやり通せば、必ずよい点数がどのようなテストでも取れます。また、「学校での勉強の仕方」と、「社会に出てからの勉強の仕方」は変わりません。社会に出てから新しいことを一人で勉強するときにも必ず役に立ちます。学校でも社会に出てからも、「学力」が高い低いは何によって決まるかと言えば、「勉強の仕方」を身に付けているかどうかで決まります。

勉強の方法についても、学校での勉強は、社会に出る準備と言えます。

(2)「学習の3段階理論」では、「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の3つの段階に分けます。

「理解」とは、今勉強していることが「うなるほど」とよくわかること、腑(ふ)に落ちることを言います。授業に真剣に臨むことと、自分でよくわかるまで勉強することが「理解」のコツです。

「定着」とは、一度「うなるほど」とよくわかった、つまり「理解」したことが十分「身に付くこと」を言います。具体的には、

(ア)一度「理解」したことを、何も見ないで口をついてスラスラ言えるようになること。「音読練習」を、何十回、何百回も繰り返すことがコツです。

(イ)何も見ないで、楷書(かいしょ)で正確に書けるようになること。「書き取り練習」を、正確に書けるようになるまで繰り返すことがコツです。

(ウ)一度勉強して、なぜそういう答えになるのかを十分「理解」した計算問題や練習問題を、見た瞬間に条件反射で正解がパッパッと出せるまでにすること。「計算・問題練習」を、時間をおいて6回以上繰り返すことがコツです。

*この(ア)~(ウ)までができるようになって、「定着」したと言います。

「応用」とは、1つ1つの試験で十分な得点が取れることと、実際の生活で活用できることを言います。

(ア)中間テストや期末テストのような学校の定期試験では、100点満点が取れること。実用英語検定のような資格試験や医師になるための国家試験や、私立中学校入試・公立中高一貫校入試・高校入試・大学入試などの入学試験では、合格点が取れること。

*過去問や予想問題を解き、「誤答分析(誤った答えを分析)」することがコツです。

(イ)「実際の社会生活」で、一度「理解」し「定着」させた知識や技能を他の情報などとうまく組み合わせて活用できること。

図にまとめてみると、次のようになります。

段階	名称	内容	勉強方法のコツ(秘訣)
第1段階	「理解」	「うなるほど」とよくわかる。腑(ふ)に落ちる。	・授業に真剣に臨むこと。 ・自分一人で、よくわかるまで勉強すること。
第2段階	「定着」	一度「うなるほど」とよくわかった内容が十分身に付く。	・教科書・教材をスミからスミまで、「練習、練習、また練習」ですべて「暗記」すること。
		(ア)何も見ずに、口をついてスラスラ言えるようになる。	・「音読練習」を繰り返すこと。
		(イ)何も見ずに、楷書(かいしょ)で正確に書くことができる。	・「書き取り練習」を繰り返すこと。
第3段階	「応用」	(ウ)問題を見た瞬間に、条件反射で答えがパッパッと出せる。	・「計算・問題練習」を6回以上繰り返すこと。
		「理解」「定着」した内容を活用できる。	・「理解」「定着」する前に、「応用」に進まないこと。
		(ア)定期テストで満点が取れる。国家試験や入学試験で合格点が取れる。	・過去に出た問題や予想問題を解き、間違えた問題についてなぜ間違えたかを分析、「誤答分析」すること。 ・「間違い問題ノート」を作ること。
		(イ)実際の生活で活用できる。	・学校時代の「教科書」と「ノートブック」を一生大切に保存し、折に触れて読み直すこと。

なぜ定期テストで100点が取れないかというと、授業での「理解」が十分できていないため

と、3つの練習を十分やっていない、つまり「定着」不足のためです。「理解」「定着」していないのに、応用問題を練習しても解けるはずはありません。

「学校の定期テストで100点を取る」、「希望校に合格する」ためには、この「学習の3段階理論」の特に「理解」と「定着」のステップを確実に踏むことが最も近道です。つまり、時間が節約でき効率的です。このような確実な方法で一度身に付けた知識・内容は、「実力テスト」、「模試」、「入試」などを活用して繰り返し学習し続ければ、生涯忘れることはありません。

この勉強の仕方を、これから少しずつゆっくりと、なるべくわかりやすくご説明します。どうかじっくりお読み下さいね。

<「理解」を確実にを行うには>

Q:「うんなるほど」と「よくわかる」、「腑に落ちる」のが「理解」であることはわかりました。この「理解」を確実にを行うにはどうしたらよいですか。

A:「うんなるほど」と「よくわかる」、「腑に落ちる」ことを「理解」するということをわかっていた
だけありがとうございます。

この「理解」はどこで行うことが多いか。

「学校」や「開倫塾」などで先生の話聴いて、つまり「授業」に出席して「うんなるほど」と「よくわかる」、「腑に落ちる」場合が多いと思います。

また、「予習」や「復習」など自分一人で教科書や参考書、問題集などを勉強しているときに、「うんなるほど」と「よくわかる」、「腑に落ちる」場合も多いと思います。「理解」する場面を、「授業」と「自習(授業前の「予習」、授業後の「復習」)」とに分けてゆっくり考えてみましょうね。(今回は、「授業」での「理解」の方法、つまり「授業」の「受け方」をかなり詳細にお伝えします。)

<「授業」で「理解」を確実にするには>

Q:「学校」や「開倫塾」などの「授業」で先生からお話などを聴いて、また、授業中のいろいろな学習活動に参加して、学習内容を確実に「うんなるほど」と「よくわかる」、「腑に落ちる」、つまり「理解」するためには、どうしたらよいですか。

A: 授業の「欠席」、「遅刻」、「早退」、「忘れ物」をしないことが最も大切です。せっかく「学校」や「開倫塾」で先生が皆様に「うんなるほど」と「理解」してもらおうと、その日の授業で「これはこのように教えよう」そうして「よくわかってもらおう」と様々な準備をして授業に臨んでも、肝心(かんじん)の皆様が「欠席」、「遅刻」、「早退」して教室に存在しないと、授業中に「うんなるほど」と「理解」してもらおうことはまず難しいからです。

Q: 授業の「欠席」や「遅刻」、「早退」をしないようにと親や先生方からいつも言われるのは、「欠席」や「遅刻」、「早退」があると、「授業」で「うんなるほど」と「理解」できないからなのですね。

A: よくわかりましたね。なぜ授業に「欠席」したり「遅刻」することはよくないか、「早退」することはよくないか。それは、「教室」に居なければ、存在しなければ、先生の「授業」が受けられないからです。「欠席」や「遅刻」、「早退」があると、「授業」の中で先生が教えて下さる新しいことやよくわからないことや大切なことが、「うんなるほど」と「理解」できないからです。

<欠席、「遅刻」、「早退」をなくすには>

Q: 授業に「欠席」したり、「遅刻」したり、「早退」することをなくすには、どうしたらよいですか。

<健康第一>

A: 「健康第一」と考えることです。「健康」には、「身体健康」と「心の健康」の2つがあります。

「身体」と「心」の「2つの健康」を第一番目に大切なものと考えて下さい。

<早寝、早起き、朝ごはん>

開倫塾では、身体と心の健康を第一番目に大切なものと考え、「早寝」、「早起き」、「朝ごはん」を塾生の皆様にお勧めしています。

夜は12時前には床に就き、朝は7時前には起床。「朝ごはん」をゆっくりしっかり食べて、トイレをゆっくり済ませ、余裕を持って一日をスタートすることだと私は考えます。

《なぜ健康第一か、なぜ早寝、早起き、朝ごはんなのか》

私は、受験生であっても毎日夜は12時前には床に就き、7時間は睡眠時間をとる。一回の食事には20～30分の時間をかける。精神的、肉体的にゆとりを持った生活をするのが大事と考えます。あせって物事をすると、注意が散漫(さんまん)になります。準備もよくできずに、事件や事故を自分で起こしたり、事件や事故に遭遇(そうぐう)する確率が極めて高くなります。

約束した時間の少し前までに、約束した場所・目的地に「辿(たど)り着く」、つまり到着することができるのは、人間として最も大切な能力です。「欠席」、「遅刻」、「早退」なしで授業に出席できるのは、「能力」が高いからです。

そのような意味で、「無遅刻」、「無欠席」、「無早退」は、最も能力の高い人と言えます。素晴らしいことです。学校で「無欠席」の人は「皆勤賞」を受賞し、その栄誉が称(たた)えられます。「皆勤賞」には、よくがんばったという意味と「一日も休むことなく学校に辿(たど)り着く能力」が高く評価されるという2つの意味があると私は考えます。

社会に出て最も必要とされるのは、会社をはじめ勤め先の勤務時間の少し前に職場に辿(たど)り着く、到着できる能力です。職場で退勤時間まで勤務できる能力です。出勤すべき日には休まず出勤できる能力です。(もちろん病気や家族の不幸などの理由がある場合は別です。)欠勤や遅刻、早退が多いと、その職場にその人が存在することが確実でないので、その人に仕事は任せられません。

学校生活は、社会に出る準備です。学校時代に、欠席、遅刻、早退をしないという「生活能力」を身に付けて下さいね。

Q:「忘れ物」があると、なぜ「うなるほど」と「理解」が難しくなるのですか。

A:「教科書」や「先生が作ったプリント」、「副教材」、「辞書」、「資料集」、「ノート」、「筆記用具」など授業に必要なものを持ってくるのを「忘れる」と、先生の授業がよくわからないことが多くなるからです。ノートがなければ、必要なことがノートできない。筆記用具がなければ、ノートをしたり計算練習をしたりすることもできない。「忘れ物」をすると、「授業」での「理解」が「著(いち)じるしく」困難になります。

Q:「忘れ物」をしないためには、どうしたらよいのですか。

A:カバンやバッグの中に何をどのように入れるかを、自分の頭でよく考えて決め、図に描(えが)いしておくことです。家でも自分の勉強用具を置いておく場所を決めておき、次の日の「時間割」を見ながら、授業で必要なものをよく確認して「カバン」や「バッグ」の中の自分で決めた場所に、自分で描(えが)いた図を見ながら入れること。

朝は忙しいですから、夜、寝床に就く前に、明日の予定表や時間割を見ながら必要なものを順序よく自分で決めたところに入れていくこと。これが、「忘れ物」をしない「コツ」と言えます。

「忘れ物」をせずに授業に出席することも、高い「能力(スキル)」と言えます。学校に徒歩、つまり歩いて通っているうちはまだよいのですが、18歳以上になり自動車を運転するようになると、「運転免許証」を忘れて車を運転すると「運転免許証不携帯」の「犯罪行為」として罰せられます。

旅行するときに財布を忘れると、切符を買って電車に乗ることができません。お金を忘れて食堂で食事をすれば、無銭飲食の現行犯で逮捕されることもあります。社会に出てからも、「忘れ物」

をしないことは大事です。

このように、「欠席」、「遅刻」、「早退」、「忘れ物」は授業での「理解」を著しく妨げますので、「健康第一」、「早寝」、「早起き」、「朝ごはん」を心がけ、時間に余裕を持った毎日を過ごしてもらいたいと希望します。

この「欠席」、「遅刻」、「早退」、「忘れ物」のないことが大事なのは、学校や開倫塾に在籍している間だけではありません。社会に出てからは、もっともっと、何十倍、何百倍も大切であることもよく覚えておいて下さいね。

教科の勉強も大切ですが、このような「生活する上での能力(生活能力)」は、社会に出てから、学校時代に身に付けた能力がすべて役に立ちます。社会に出るともっと大切です。このような意味で、学校時代は、皆様が社会に出るための準備期間と言えます。

Q:「授業」中に「うんなるほど」と「よくわかる」「腑に落ちる」つまり「理解」することの妨げになるものは、「欠席」、「遅刻」、「早退」、「忘れ物」の他にまだありますか。

A:ここまで私をご説明すれば、何があるか皆様もよくおわかりになると思います。

「おしゃべり(私語)」、「携帯(メール)」、「居眠り」、「出歩く」、「授業と違うことを考えていること・やっていること」、「ボーッとしていること」などが考えられます。

「居眠り」、「携帯 e-mail」、「授業と違うことを考えていること」、「ボーッとしていること」などは、自分自身の「理解」が著しく妨げられます。行ってはなりません。授業中に席を離れて歩き回る、「おしゃべり(私語)」は、他人の「理解」の妨げになる「授業妨害」の行為と言えますので、絶対に行ってはなりません。

私は、今、宇都宮大学の客員教授を拝命(はいめい)しています。一昨年、宇都宮大学大学院の工学研究科で私が講義をしていると、携帯電話に出るためにか、教室の外に何回も出て行く大学院生がいてびっくりしました。そのような行為も「授業妨害」と言えます。(その学生には注意をしました。昨年と今年の学生には、そのような学生はおりません。)

Q:「おしゃべり(私語)」は、なぜ「理解」を妨げるのですか。

A:おしゃべりをするときには、話しかけるAさんと話を聞くつまり話しかけられるBさんの2人が普通は存在します。このAさんとBさんは、授業以外の話をしているのですから、授業中に先生が教えて下さっていることは、頭に入らない。「うんなるほど」と「理解」することはできないと言えます。

先生が教えて下さっていることを「理解」できないのは、おしゃべりをしている当事者であるAさんとBさんだけではなく、その近くに着席している何人かの方も同じです。少し離れたところに着席している人も、おしゃべりの音に先生の声が混じり合って、また、おしゃべりが気になって、先生の教えて下さっている内容が「理解」できないこともあります。

授業をする先生にとっても、おしゃべりほど迷惑な、気になる、本当のことを言えばいやなものはありません。命懸けで授業の準備をしてきたのに、おしゃべりをして授業に集中していない人がいると、先生のヤル気を失わせます。「おしゃべり」をやめさせるために「静かにしなさい」と注意をし続けることは、先生にとって本当につらいことです。おしゃべりほど、先生にストレスを与えることはありません。先生のヤル気を失わせることはありません。日本中で多くの学校の先生がおしゃべりに耐えられず、ノイローゼになったり、学校を退職しています。

私は、先生が教えて下さる内容の「理解」を妨げるおしゃべりは、「授業妨害」であると考えます。少なくとも自分はおしゃべりをしない、誰かが話しかけてきても相手にしない、おしゃべりをしている人には注意をすることが大切です。(開倫塾では、おしゃべりがある場合には、「授業妨害行為」として退塾処分にもありますので、御承知おき下さい。授業中騒がしいクラスには、

塾長の私が「勉強の仕方」を直接指導しに行きますので、TEL 0284-73-7812 塾長室 高尾まで御遠慮なく御連絡下さい。)

おしゃべりをする児童・生徒は、学校や学習塾では問題の多い児童・生徒として職員会議で取り上げられる場合が多いことを是非知って下さい。

小学校、中学校、高校、大学とすべての学校、それから開倫塾のような学習塾、予備校のすべての教室では、授業や実習という形で先生による教育がなされます。おしゃべりは、「授業の成立」を妨害する行為、「授業を不成立」にさせる行為と言えます。これ以上迷惑なことの無い行為と言えます。

開倫塾の塾生の皆様は、授業中は質問や議論、話し合いなど必要な時以外は「お口にチャック」を貫き、口を開かないようお願いいたします。休み時間や授業前、授業後は十分おしゃべりして下さいね。

Q：けっこう厳しいものですね。よく考えれば、「欠席」、「遅刻」、「早退」、「忘れ物」だけではなく、「居眠り」や「おしゃべり」、「Eメール」などをしないことも、学校と同じように社会に出からは大切なものと考えられるのですね。

A：よいところに気がつきましたね。病気のときや特別な事情があるときに「欠席」、「遅刻」、「早退」をするのは、社会に出て仕事をするときにも「お互い様」ですので仕方がないと思いますが、正当(せいとう)な、つまりちゃんと説明がつくような理由がなく仕事に「欠席」、つまり仕事を休んだり、始業時間に遅刻したり、終業時間の前に早退することは、どこの職場でも認められません。仕事に必要なものを「忘れる」、つまり「忘れ物」をしたら仕事になりませんので、多くの人々に迷惑をかけることとなります。このようなことが度重なると、職場での信用がなくなり「仕事」を失うことすらあります。

仕事に「居眠り」、「おしゃべり(私語)」、「携帯Eメール」、「ボーッとしていること」なども、他の人の迷惑になります。そのようなことをしていると、自分の仕事は進まないし、他の人の迷惑にもなるので絶対禁止です。事件や事故の原因にもなります。

学校や開倫塾でのすべての勉強は、社会に出てからも役に立つ。教科書の勉強も役に立つが、それ以外のこともすべて役に立つと私は考えます。

Q：今までの内容を少し図にまとめてみて下さい。

A：はい。下の図をじっくりお読み下さい。

段階	内 容		「理解」を妨げるもの	対 策
「理解」	「うなるほど」と「よくわかる」。「腑に落ちる」。	授業	(ア)「欠席」「遅刻」「早退」「忘れ物」	健康第一 早寝、早起き、朝ごはん
			(イ)「おしゃべり(私語)」「携帯(メール)」「居眠り」「出歩く」「授業と違うことを考えていること・やっていること」「ボーッとしていること」	絶対禁止 開倫塾では、おしゃべりは退塾処分

<授業の受け方>

Q：理解するうえで、授業を聴くときに一番大切なことは何ですか。

A：両手を机の上に置き、背筋を伸ばし、先生の目を見て、つまり先生とアイコンタクトをして話を聴くことです。先生の説明は一言も聞き逃さないぞという真剣さ、熱心さで授業に臨むことです。

- ・先生がお話しているのに横を向いたり、もう一度言いますが、隣(となり)や周囲の人とおしゃべり(私語)をしていることはあってはならないことと私は考えます。
- ・先生も「一所懸命」に一つの所で命を懸けるくらいの熱心さで授業をする。塾生の皆様も「一所懸命」に同じような熱心さで、両手を机の上に置き、背筋を伸ばし、先生の目を見て、先生とアイコンタクトをして先生の話に耳を傾ける。先生も塾生も真剣勝負で授業に臨んでではじめて、「うんなるほど」と「よくわかる」「腑に落ちる」、つまり「理解」できるという素晴らしい結果が生まれると私は考えます。

<どこに着席するのが、「理解」のうえでよいか>

Q：座席が決まっておらず自由に着席してよい場合には、どこの席で授業を聴くのが「理解」をするうえで一番よいですか。

A：最も前の席、つまり「最前列の中央の席」が一番よいと私は思います。後方の席ですと、前に座っている人の体が妨げになって、先生の授業をしている姿がよく見えないことがあります。先生が小さな声の時には何を言っているのかわからないこともあります。黒板に書いた内容がよく見えないこともあります。このような理由で、座席は先生に近ければ近いほどよいのです。自由に着席できるときには、最前列の中央で授業に臨むとよいでしょう。

私が慶應義塾大学の法学部・法律学科の学生であったころ、よい授業をすることで有名である教授が授業をするときには、前の席から成績優秀な学生で埋まったものです。前の座席に座ると、一番授業がわかりやすく受けられるためです。私は、慶應義塾大学卒業後に何年間か東京大学法学部の授業を時々聴きに行っていました。東大も慶大と同じで、前の座席から熱心な学生で埋まっておりました。

なぜ一番前の座席がよいか。一番前の座席で授業を受けると、先生と自分との間に何もありませんから、先生があたかも自分一人に語ってくれるように思えます。自分一人に直接教えて下さるように思えてきます。先生の口元(くちもと)がよく見えますから、小さな声での説明も口の動きでよくわかります。黒板も、一番前の席ならスミからスミまでよく見えます。一番前の中央の座席は、授業の「特等席」と言えます。自由に着席してよいときには、早目に教室に到着し、「特等席」に着席すべきです。

社会に出てセミナーなどいろいろな勉強会に出席するときにも、少し早目(30分位前)に会場に行き、最前列の中央近くに着席すると、本当によく先生の話がわかります。

<ノートの取り方>

Q：授業中のノートは、どのように取ったらよいのですか。

A：先生の話す内容を一言も聞き逃すことなく、よくまとめながらどんどんノートに取る。私は、聴いたことをよくまとめながらどんどんノートに取ることが、ノートを取るうえで一番大切と考えます。

先生がお話したことをよくまとめながらノートに取るのですから、先生が黒板に書いたこともできるだけ詳細にノートに取ることは当然です。先生がお話になったことと黒板に書いたことを、よくまとめながらできるだけ詳細にノートに取る。この授業を受けるときの基本を忘れないで下さいね。

Q：なぜ先生が言うことと、黒板に書いたことの大半をノートに取るのですか。

A：人間は誰でも一度見たり聴いたりしたことの大半を忘れてしまうからです。授業中に先生から教えていただいたことを、よくまとめながらどんどんノートに記録しておくことは大切と私は考えます。

授業の「日付」と「時間」、「その日のテーマ、学習項目」、「教科書の該当(がいとう)ページ」などは必ず書くようにするとよいでしょう。

Q：授業中の「ノート」は、どのように活用したらよいのですか。<My Notebookを作ろう>

A：授業中に取った「ノート」は、授業の後に上手に活用すれば皆様の人生にとって「宝物」となります。ですから、「ノート」をどのように活用したらよいか考えることはとても大切です。(もしかしたら、ノートの活かし方は、「勉強の仕方」の中で、ということとは「学力」を身に付ける方法の中で一番大切かも知れませんよ。)

授業中に取った「ノート」を何度もじっくり読み直すと、先生の授業で「うんなるほど」と「よくわかった」「腑に落ちた」こと、つまり「理解」できたことがもっとよくわかるようになります。また、授業中はボーッとしかわからなかったことも、もう一度ゆっくりノートを読み直すことで「よくわかる」つまり「理解」できるようになることもあります。

<「ノート」も音読を、「ノートブック」作りを>

ノートを声を出してゆっくり読み直しながら、「ノート整理」することが大切です。「音読」しながら、大切なところに自分のお気に入りの印を付ける。項目に後で読みやすいように番号を付ける。枠で囲む。授業中に取った「ノート」を、後で読みやすい、後で勉強しやすい、自分自身のための「本」に変身させることを私は皆様にお勧めしたいのです。「ノート」のことを、英語では「notebook ノートブック」と言います。英語の「note」には、動詞として使うときには「書き留(と)める」という意味があります。なぜ「book」が付いているかと言えば、note つまり書き留めたものを本のようにして大事に活用するからだと思います。イギリスはじめヨーロッパでは、大学生はもちろんのこと、小学生、中学生、高校生など学校という名の場所で勉強する人は、皆、授業などで勉強した内容はすべて「notebook ノートブック」に書き留めます。授業後に、自分なりにその内容を整理したり必要なことを付け加えながら、自分専用の「本、つまり notebook(ノートブック)」を作ります。繰り返し繰り返し自分で作った「notebook」を、「教科書」と同じように、「音読」や「書き取り練習」をしながら勉強し続けるようです。賢い人ほど、小学生や中学生、高校生の時に自分の力で作った「notebook」を、大学生になっても社会に出てからも手放すことなく、一生涯それを活用して勉強し続けるようです。

自分で作った「notebook ノートブック」を第2の教科書、自分で作った自分のための「本」として一生に渡って活用することを、私は皆様にお勧めします。

このような意味で、できればこれからは「ノート」と呼ばずに「ノートブック notebook」、「My Notebook」とお呼びになることもお勧めいたします。

ただし、一言だけご注意ください。あまり完璧な「ノート」、「ノートブック」をお作りになると、勉強する目的が「ノート」作り、「ノートブック」作りになってしまい、膨大(ぼうだい)な時間がかかります。これでは本末転倒(ほんまつてんとう)です。「ノート」、「ノートブック」を「整理」する目的は、それを用いて授業後に勉強することにあります。授業の後に繰り返し繰り返し勉強するためにノートを「整理」し、自分自身の「ノートブック」を作る。このことをお忘れなきようお願いいたします。

人からお聴きした話や見たことを、自分なりにまとめながらどんどん文章にしていくことは、人間が生きていくうえでの最も高い「能力」の一つではないかと私は確信します。

「言語能力」には、「読み」「話し」「聴き」「書く」の4つの能力があると言われます。人から

聞いた内容の大切なことを、まとめながらどんどん書き取ることができることは、「聴く能力」と「書く能力」の中で最も高い能力の一つと私は思います。

Q：学校の授業中に先生が教えて下さったことや板書事項を詳細に「ノート」に取ることは、社会に出てからも役に立ちますか。

A：社会に出て役に立ちます。大いに役に立ちます。

<仕事はメモで身に付ける>

例えば、社会に出て何か仕事をするときをお考え下さい。普通、仕事には教科書はありません。機械などを用いるときには、細かな「使い方の説明書」や、仕事によっては「作業指示書(さぎょうしじしょ)」があり、それをよく読んで頭に入れたうえで仕事をしなければなりません。しかし、自分がしなければならない仕事をするうえでのすべてのことが、文字に書かれており、それを読んで「理解」すれば「仕事」ができるかと言えば、必ずしもそうではありません。文字になっていないことで大事なことは、仕事のうえでは山ほどあります。

上司や同僚、お客様、ビジネスパートナー(他の会社や組織の人だけれども、一緒に協力して仕事をする人)、地域社会の人々、その他いろいろな人と話し合ったり、教えてもらったり、苦情や意見を聴いたりしてはじめて、仕事をすることができます。そのときに一番役に立つのが、「メモ」です。相手の言っていることで大切と思われることをすべて、その場で「メモ」をする。取った「メモ」は、わかりやすいように「整理」しながら、後でゆっくり時間をかけて繰り返し繰り返し読み直し、身に付けること。

何だか授業中の「ノート」の取り方、その活用の方法と似ていると思いませんか。「メモ」がよく取れる人、また、「メモ」を活用できる人ほど、他人から信頼され、よい「仕事」ができる人と言われます。

人から聴いたことを「メモ」にも取らずに次から次へと忘れてしまう人は、他人から信頼されることもなければ、次から仕事をさせてもらうこともありません。何度か約束を忘れ、他人に迷惑をかけたなら、「もう来なくてもよい」と言われるようになります。必要なことを「メモ」する「能力」がないと、また、「メモ」したことを忘れて約束を守れないと、「仕事」を失うことすらあります。(仕事以外の生活でも「メモ」は大切ですよ。)

Q：細かいことですが、「ノート」を整理するときに勉強した項目に「記号」や「番号」を付けるとはどういうことですか。

A：なかなかよい質問ですね。これは、ノートを整理するときだけでなく、皆様が大学や社会に出てレポートを書くときにも役に立ちます。横書きの場合をご紹介します。

1.	日本国憲法
(1)	3大原理
	基本的人権の尊重
	(ア)基本的人権の種類
	(a)自由権的基本権
	(b)生存権的基本権

例えば、社会の「公民(中3)」や「現代社会(高1)」、「政治経済(高3)」の授業で、今日勉強する一番大きな項目として、1.「日本国憲法が」があるとします。日本国憲法には3つの大きな原理があることを次に学びます(1)。その中の1つは基本的人権の尊重です()。基本的人権を学ぶときには、その種類

を次に学びます(ア)。その種類として(a)、(b)の2つがあります。他にも分け方はあるとは思いますが、このように少しずつ細かく項目を分けていくと、「ノート」を整理したり、「レポート」を書くときにわかりやすくなります。

*皆様も、学校の教科書やいろいろな本やレポートを読むときに、

1.			
(1)			
		(ア)	
			(a)
			(b)

どのように「整理」されているかに関心をお持ちになり、自分なりの整理の方法、「記号」や「番号」の付け方を工夫すると、勉強が楽しくなりますよ。これも、大学や社会ですぐに役立つ大事な勉強です。

* 縦書きの場合はどうなのか。国語の教科書などを参考に、自分で調べてみましょうね。(宿題です。)

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)開倫塾で塾生の皆様に成し遂げてもらいたいこと、身に付けていただきたいことは何か。

「定期テストで100点を取ること」

「英検で毎年1つの級に合格すること」

「進学を希望する学校への合格を果たすこと」

このことが大切です。そのために、現在の自分の実力を直視したうえで、よくできるところはもっともっとどんどん伸ばし、改善すべきことは改善すること。つまり、「自覚」を持って～の勉強に取り組むこと。このことが大切と考えます。

ただし、問題なのは、「定期テストで100点を取りさえすればよいのか」「英検に合格さえすればよいのか」「希望校に合格しさえすればよいのか」ということです。「ここがテストに出るから、ここだけ丸暗記すればよい」という態度で「定期テスト」や「英検」、「入試」に臨めば、点数はある程度取れ、学校成績もそこそこ上がり、英検や入試に合格することもあります。しかし、本当の学力、つまりその先の勉強に役立ったり、上の学校に進学したときや、社会に出たときに役に立つ「学力」は十分には身に付かないということです。

(2)開倫塾で塾生の皆様に成し遂げてもらいたいこと、身に付けていただきたいことは何か。

「定期テストで100点満点を取る」ための勉強をすることによって、「定期テスト」後の学習や社会に出てからの生活に役立つような「学力」と「勉強の仕方」を身に付けてもらいたいということです。

「英検合格」の勉強を通して、「英検」に合格した後の学校の英語の勉強や、入試のための英語の勉強、上級学校に進学した後の英語の勉強、さらには、社会に出てからの英語によるコミュニケーションに役立ててもらえるような「学力」と「勉強の仕方」を身に付けてもらいたいということです。

「希望校の入学試験合格」のための勉強を通して、「希望校に入学」してからの勉強や社会に出てからの生活に役立つような「学力」と「勉強の仕方」を身に付けてもらいたいということです。

(3)せっかく学校や開倫塾で勉強なさるのなら、「点数さえ取ればよい」「合格さえすればよい」という「その場凌(しの)ぎ」の、その時だけ何とか切り抜ければよいという勉強ではなく、しっかりとその「テストでよい点を取ること」を通して身に付けた「学力」と「勉強の仕方」を活かして、後々の学校での勉強や社会での生活に役立てていただきたい。～の「テスト勉強」をしながら、その後の勉強や社会に出てからの生活に役立つような「学力」を身に付けていただきたい。そのための「勉強の仕方」を身に付けていただきたい。

時間は多少かかるかもしれませんが、今お話したような本格的な勉強方法で学力が身に付けば、定期テストでも英検でも入試でも、最高レベルの得点が可能と私は確信します。なぜいつまでたってもよい点が取れないかといえば、時間をかけての本格的な勉強が足りないからだと言えます。

(4)今回の塾長通信では、「学習の3段階理論」のうち「授業を通じた理解」の方法を、「ノート」の活用の方法を含めてご説明させていただきました。

今回は十分御説明できませんでしたが、「理解」の場面としては、「授業」の他に「自分で予

習や復習をしながらの理解」もあります。「予習は、何のためにするのか。予習はわからないことをはっきりさせて授業に臨むためにするもの。」そのためには、辞書や参考書を大いに活用することが大切であります。また、「予習」と「復習」それぞれの段階で「理解」した内容を身に付ける、「定着」させるためには、「教科書」や「ノートブック」の徹底した「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」でスミからスミまで一語残らず覚えることが求められます。

授業後に行う「復習」だけでなく、一人で「予習」をして「うんなるほど」と「理解」した内容は、遠慮なく「3つの練習」を行って下さいね。得意科目はどんどん誰に遠慮することなく、先の先まで「予習」すること。「予習」して「理解」したことは、「3つの練習」を繰り返して完全に「定着」させること。これを実行して下さい。これで、未来が「パーッ」と開けますよ。

このような勉強方法で「理解」「定着」させてから、「応用問題」練習を繰り返し、弱点分野を再度「理解」し「定着」させることで、「得点力(合格できるだけの得点が取れる力)」が身に付きます。社会に出ても役立つことができます。

(5)「勉強の仕方を身に付ける能力」(英語では Learning to learn(ラーニング・トゥ・ラーン) 学び方を学ぶ「学習の学習」)のスキルこそが、学力を身に付けるうえで最重要です。これに加えて、「幅広い読書」をすることで「反省」、「熟考」、「熟慮」、「ものごとの本質を考えること」ができます。英語では、reflection(リフレクション)と言うようです。リフレクションに基づいた「思慮深さ」を備えることが大切だと思います。反省、自分自身を振り返る能力を身に付けることが、「学力」を身に付ける基本と私は考えます。

このような本格的な勉強は、学校時代だけでなく、生涯に渡って行うこと(生涯学習)ではじめて成し遂げられると私は考えます。学校時代はその基本をつくる時期です。一步一步あせることなく行って参りましょう。「学習の3段階理論」はそのためにあります。今やることは、「学習の3段階理論」を活用して「定期試験で100点満点を取ること」です。人生は長いですから、ゆっくり頑張ってお参りしましょう。

今回も長い文章をお読みいただきありがとうございます。心から感謝申し上げます。

————— 開倫塾ニュース7月号特別付録追加 —————

Q. 開倫塾では、身に付けなければならない「能力(スキル)」を7つの段階に分けて考えているようですが、「理解」「定着」「応用」の「学習の3段階理論」にも当てはまりますか。

A. 開倫塾では、ヨーロッパの語学教育についての「共通参照枠」(つまり、語学を学ぶ人、語学を教える人みんなが共通に参考にしながら段階別に能力を上げていこうという目安)に習って、身に付けなければならない能力をA₀ A₁ A₂ B₁ B₂ C₁ C₂の7段階に分けて考えております。学習についても、「学習の3段階理論」を7つに分けて考えると面白く、皆様のお役に立つと考えます。

最後のページに、図にまとめてみました。まずはじっくりお読み下さい。

Q. なかなか興味深い表ですね。どのように活用したらよいのですか。

A. A₀(エイ・オーと呼びます)は、最低基準(レベル)として求められる能力(スキル)とお考え下さい。A₁(エイ・ワンと呼びます) A₂(エイ・ツー)と上にいくほど、少しずつ難しくなります。A₀とA₁だけは必ず全科目やっていただいて、A₂からは得意な科目だけでもお取り組み下さい。C₁に近づけば近づくほど、確実に「学力」が身に付きます。この勉強方法で身に付けた「学力」は、「学校の定期テスト」や「英検」、「入学試験」でよい結果を出すだけでなく、一生役に立ちます。

小学生の時にした漢字書き取りのお陰で、一度書き取り練習をして覚えた漢字はいつまでも忘れない、一生涯忘れないのと全く同じです。熱心にお取り組み下さいね。

Q . 最後におたずねします。勉強のコツ、ポイント、秘訣は何ですか。

A . 「真剣さ」だと私は確信します。ヘラヘラしては勉強になりません。

- (1) 奥歯(おくば)を嚙(か)みしめ、顎(あご)を引いて、真剣に先生の目を見つめて授業に臨(のぞ)む。
- (2) 授業が終わったら、「ノート整理」をし、自分の「ノートブック」を作る。やるときは必死になって、命懸けで「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」をやり抜く。教科書に書いてあること、「ノートブック」にメモしたことは、スミからスミまで覚え切る。
- (3) 「過去問」を何回分か自分の力で解いてみて、間違えた問題をすべてやり直す。やり直しながら、なぜ間違えたのか「誤答分析」をする。
「理解」不足なら、「教科書」を「辞書」や「参考書」を活用して勉強し直す。調べたことは、「ノートブック」に書いておく。「定着」不足なら、その部分だけでも「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返す。間違えた問題は最低6回、できれば10回やり直す。問題を見た瞬間に、条件反射で正解が出るまでにする。
- (4) 「真剣さ」、「必死さ」、「一所懸命(一つの所で命を懸ける)さ」が勉強には欠かせない。
宮本武蔵(みやもとむさし)の「五輪書(ごりんのしょ)」や世阿弥(ぜあみ)の「花伝書(かでんしょ)」などをよく読むと、勉強の基本的な態度が記されている。いつかきっと、皆様もお読みいただきたい。
- (5) 勉強について「だらしなさ」、「いいかげんさ」、「ぞんざいさ」から脱却することが大切。

- 塾長紹介 -

- ・ マニー株式会社 社外取締役
- ・ 宇都宮大学大学院工学研究科客員教授
- ・ 栃木県社会教育委員
- ・ 経済同友会(東京)幹事

感謝

- 5月29日記 -

Learning To Learn(勉強の仕方)のスキル(能力)と「学習の3段階理論」

		勉強の仕方のスキル(能力)	勉強のコツ(秘訣)
C ₂	応用 (2)	社会での生活や仕事に役立てることができる。	「教科書」と「ノートブック」を確実に保存し、折に触れ、一生涯読み直す。勉強し直す。
C ₁	応用 (1)	テストで十分な得点が取れる。 (1)定期テストで100点満点が取れる。 (2)英検や入学試験で合格点が取れる。	「過去問の誤答分析」... 以前出題された問題を自分の力でやってみて、間違えた問題につきなぜ間違えたかを分析。「理解」「定着」とやり直す。
B ₂	定着 (3)	一度授業などで解き方を十分「理解」した計算や問題は、問題を見た瞬間にパッと条件反射で正解を出すことができる。	「計算・問題練習」... 同じ計算や問題を、最低でも6回、できれば10回やり直す。
B ₁	定着 (2)	何も見ないで正確に口をついて言うことができるようになった(暗誦できるようになった)内容を、何も見ないで正確に楷書(かいしょ)で書ける。 *「暗写(あんしゃ)」できる。	「書き取り練習」... 繰り返し繰り返し、何回も何十回も、書けるようになるまで書き取り練習をすること。
A ₂	定着 (1)	授業などで一度うんなるほどと「理解」した内容を、何も見ないで正確に口をついて言うことができる。 *「暗誦(あんしょう)」できる。	「音読練習」... 繰り返し繰り返し、何十回、何百回も、声を出して「教科書」や「ノートブック」をスミからスミまで覚えるまで読むこと。
A ₁	理解 (2)	授業をきちんと受けることができる。 (1)両手を机の上に置き、先生の目を見て、先生の話を聴くことができる。 (2)授業中に先生が教えて下さったことや黒板に書いたことを、ノートに取れる。授業後、ノートを「整理」できる。	(1)授業は、先生も塾生も真剣勝負。緊張感を持って臨むこと。 (2)自分自身の「ノートブック」を作ること。
A ₀	理解 (1)	(1)授業に欠席、遅刻、早退、忘れ物なしで参加できる。 (2)おしゃべり(私語)、居眠り、携帯(メール)、出歩く、他のことを考えたり、ボーッとすることなしに、授業を受けることができる。	・健康第一(心の健康、身体の健康) ・早寝、早起き、朝ごはん ・おしゃべり絶対禁止 *他の人が授業を受けることを妨害したら、退塾処分。